

教育委員会

コラム Vol.9

教育長室の窓から

朱に交われば赤くなる！

「朱に交われば赤くなる」とか「墨に近づけば黒くなる」などの諺をご存知でしょうか。私などまさにその典型ですが、人間はとかく環境に影響されやすいものです。

ところで、中国の孟子の母の教えに「孟母三遷の教え」というのがあります。主な内容は次の通りです。「幼い孟子を育てるとき、母親は、初め町中の市場の近くに住んでいたが、子どもは商人駆け引きのまねばかりするので、これは子どもを育てる環境ではないと言って、墓場の近くに居を移しました。すると、子どもは、お葬式のまねごとをよくするのです。ここも子どもを育てる場所ではないと言って、今度は学校の近くに引っ越したのです。すると、今度は礼儀作法のまねごとをするようになったので、これこそ子どもを育てる場所と言って、そこに落ち着いたというのです。」

子どもに良い環境を与えることが、いかに大切かというお話です。その後、孟子は「居は氣を移す」と言って、環境の大切さを説いています。

「環境は、人をつくる」という言葉もありますが、孟子の母親のように、いくら子どものためとは言っても、三度も家を引っ越すということは、今の時代では困難なことです。子どもを取り巻く環境の一つに「言語環境」があります。学校教育では適切な「言語環境」をつくるのが教師の大きな役割の一つです。

○教師は正しい言語で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書くこと

○教師と児童（生徒）、児童（生徒）相互の話し言葉が適切に行われるような状況をつくること

○適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用すること

○校内放送において、適切な言葉を使って簡潔に分りやすく話すこと 等



言語環境を含め、私たちの周りの環境は、子どもの育ちや私たちの生活でも気をつけたいものの一つではないでしょうか。

教育長の

ちょっといい話

出逢い

「漁師 村 公一」さんをご存じでしょうか。鳴門の漁港で「村さんの鱸」「伝説のスズキ漁師村さん」など自身の名前のブランド商品として流通する特別な海の幸。魚にダメージを与えないオリジナルの出荷方法で、全国の一流店から引っ張りだこの漁師さんで、魚や海に対しての情熱は通常ではなく、今までの魚に対する概念を根底から変えた方です。

「我々は、本当に魚のことを分かっていない。魚はみんな美味しい、まずくしているのは人なんだよ。魚の絞め方、熟成、味わい方…」現場のプロの話には説得力という言葉では言い表せない「凄み」さえ感じます。

ふと考えるに、私たちは、生きていの中でどれだけの方々と出逢うことができるのでしょうか。

年齢・業種・その他の事は一切抜きにして、自分の人生に正面からぶつかり、命を懸けて前進している方々…。

新年を迎え「今年は、どんな出逢いがあるだろう。」と新たな出逢いにワクワクしてきます。常にアンテナを高く張り、多くの「出逢い」に遭遇できるように、さらに頑張ろうと思います。

